

第2回厚生文教常任委員会会議記録

開 閉 会 日 時	令和7年5月22日（木曜）		午後 2時00分 開会			
	休 憩	14:01-02	14:09-10	14:10-15	14:55-56	14:56-15:05
	15:24-25	15:40-16:20	16:31-31	午後 4時46分 閉会		
	休憩時間：0時間58分			会議時間：1時間48分		
会議場所	3階委員会室					
出席委員 氏 名	委員長	中田智恵子	委員	中村 和宏		
	副委員長	立川 美穂	委員	渡辺洋一郎		
	委員	西尾 一則	委員	橋本 和仁		
	委員	常通 直人			議長 梶澤 幸治	
説 明 員	公立芽室病院副院長	岡山有美子	健康福祉課長	森 真由美		
	事務長	石田 哲	国保医療係長	塩原勢津子		
	事務長補佐	杉本 康次	住民税務課長	松田 奈巳		
	総務係長	佐藤 文彦	住民税務課長補佐	一色真由美		
	医事係長	佐々木弥恵子	住民窓口係長	齋藤 錦		
参 考 人						
欠 席 委 員 氏 名	委員	小笠原 等				
事務局職員	事務局長	安田 敦史	総務係長	竹川 恭史		
<p>『会議に付した事件と会議結果など』</p> <p>1 開 会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員長が開会を告げ、小笠原等委員欠席の旨を報告し、事務局から本日の委員会の日程を説明する。 <p>2 議 件</p> <p>(1) 調査事項</p> <p>当日調査事項 公立芽室病院経営強化プランについて 当日追加資料1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病院事務長：資料を担当係長から説明する旨を告げる。 ・総務係長：資料説明。 ・委員長：目次「IからIV」について、質疑はないか？ ・西尾委員：今国の病床数適正化支援事業で1床減らすと410万円の補助金が出る制度が創設され、今年度公立病院は補助金をもらっているのが駄目だが、長期的な視点で考えた場合、適用になるとすごい金額になると思うがその辺の考え方は？ ・病院事務長：国は令和6年度の補正予算の中で病院病床数適正化支援事業として、病床を削減した病院に対し、1床当たり410万4千円を支援するメニューを創設。北海道からの照会に21床削減と回答。その後、エントリーした病院が想定以上に多かったことから、自治体病院が対象から除外となった。今後この制度がどのようにな 						

るかは現段階では見通せない状況。

- ・西尾委員：見通せない状況であえて今 21 床削減し、将来的にも補助金団体はもらえる可能性はないと考えているのか？
- ・病院事務長：今年度この制度の枠を広げるよう要望しており、仮に要望が通った場合、経営強化プランにうたっていないと次のステップに進めないので、強化プランにうたう。ただし、病院としては以前から 120 床から病床数を減らそうと検討はしていた。
- ・常通委員：十勝圏全体として病床数を減らすことの影響は？
- ・病院事務長：十勝圏地域医療調整会議の中で最終的に病床数の削減について承認を得る必要があるが、打診をした段階では、全体の病床数としては問題ない。
- ・渡辺委員：病床数削減はどのように収支の改善につながるのか？
- ・病院事務長：100 床満の医療機関の方が診療報酬が高くなる制度であり、3 階の維持管理費が下がり、国から町に入る特別交付税も変わり、町の財政上もメリットがある。
- ・渡辺委員：今後さらに病床を減らす考えはあるのか？
- ・病院事務長：過去 2 年間で稼働病床数が 99 床を超える日が 1 日のみであり、現段階では考えていない。
- ・渡辺委員：病院運営委員会は定員が満たされて運営しているのか？運営委員会を経てというのは、諮問をかけていくという理解で良いのか？
- ・病院事務長：4 月 30 日に既に諮問を行っており、原案のとおり答申を得ている。
- ・渡辺委員：99 床に変更する町議会への提案予定時期は？
- ・病院事務長：考え方としては国の補正予算がなくても病床数を削減したいので、今年度条例改正を提案したい。
- ・渡辺委員：国の補助メニューにかかわらず、今現在公立病院として必要な病床数が 99 床ということで進めていきたいという理解で良いか？
- ・病院事務長：99 床が適切な病床数と考えている。
- ・中村委員：人材確保で苦慮していると考えますが、どの部門が一番厳しいのか？
- ・病院副院長：職種の中では薬剤師が 1 人欠員状態。
- ・西尾委員：訪問診療、訪問介護、訪問リハビリはコスト的に合わないのでは？
- ・病院副院長：端から端まで約 20 分位かけての移動があり、非効率という課題があるが、タブレット導入等 DX を推進し、医療の中核として町民ニーズに応えていきたい。
- ・常通委員：年度途中で 100 床に変わった段階で診療報酬は変わるのか？それとも年度当初じゃないと変わらないのか？
- ・医事係長：項目によって変わってくる。
- ・常通委員：令和 7 年度途中で病床数が変わるとそれに対応できるという認識で良いか？
- ・医事係長：お見込みのとおり。
- ・立川委員：3 階病床はずっと閉鎖したままなのか？閉鎖したまま活用の可能性を探っていくのか？

- ・病院事務長：現在検討中であり、コスト的な問題や建物の耐用年数の問題もあり、大規模な改修までは考えていない。
- ・病院事務長補佐：リハビリテーションの施術スペースへの転用や会議スペース、カンファレンスルームへの転用、スタッフの休憩スペース等今後慎重に検討を進める。
- ・渡辺委員：職員の移動も考慮し、4階の病床を3階に移すことは可能か？
- ・病院副院長：障害者施設基準の関係もあり、今後慎重に議論を進める。
- ・渡辺委員：間1階空いていることのデメリットを踏まえ検討するのか？
- ・病院副院長：現状看護師の移動も含めデメリットはない。
- ・中村委員：公立芽室病院として働き方改革の大切な部分は？
- ・病院副院長：働いている職員がやりがいをもって働きやすいと実感すること。
- ・委員長：他にないか？
- ・(意見・質疑なし)
- ・委員長：以上で「IからIV」について、質疑を終了する。

- ・委員長：次に「VからVIII」について、質疑はないか？
- ・西尾委員：一部適用から全部適用への移行は令和9年度までという理解で良いか？
- ・病院事務長：お見込みのとおり。
- ・西尾委員：あと2年で全部適用へ移行できるのか。全部適用が良いのか、それとも今の一部適用で今後の経営としてのメリットはどうか？
- ・病院事務長：国全体の流れとしては、事業会計は全部適用が大前提になっている。既に全適になった自治体の例を見ると移行に1年～2年程度かかる。
- ・立川委員：経営形態にかかわらず自治体病院の経営状況は厳しく、課題やさらに強化しなければならないことは？
- ・病院事務長：全部適用になると事業管理者選定の問題。事務負担の増や医療の質の向上が課題。
- ・病院副院長：経営的な数字だけでなく、患者や町民から信頼されて必要とされる医療集団にならなければならない。今プロジェクトチームを立ち上げ、選ばれる病院となって必要とされる病院として残ることを目指したい。
- ・委員長：他にないか？
- ・(意見・質疑なし)
- ・委員長：以上で「VからVIII」について、質疑を終了する。

- ・委員長：次に「IXからXI」について、質疑はないか？
- ・(意見・質疑なし)

- ・委員長：最後に全体を通して意見・質疑はないか？
- ・立川委員：修正医業収支比率はどの程度の数値だと安定した経営になるのか？
- ・総務係長：基本的には80%程度あれば良い。
- ・渡辺委員：病院は経営状況だけで評価すべきではない。特に今年度力を入れていくものはあるか？

- ・病院事務長補佐：出前講座やSNSの発信等広報活動を強化していきたい。
- ・委員長：他にないか？
- ・（意見・質疑なし）
- ・委員長：以上で、追加調査事項の調査を終了する。

ア 令和7年度芽室町国民健康保険税率等の考え方について 資料1

- ・健康福祉課長：事業概要説明。担当係長から資料説明する旨を告げる。
- ・国保医療係長：資料説明（「現行税率と改正後税率の比較」「軽減判定所得に乗じる額における改正内容」「令和6／7年度年税額の比較」「低所得者に係る保険税額軽減措置世帯の割合」「賦課限度額超過世帯の割合」）
- ・委員長：意見・質疑はないか？
- ・渡辺委員：現段階ではほぼ増額となっているが、全体的に増額と捉えてよいか？
- ・国保医療係長：北海道では令和12年度の国保税統一に向けて準備を進めており、現段階では税率は上がっていく見込み。
- ・渡辺委員：令和5年度決算で実質収支約3億2,500万円の余剰金を活用し、引上げ防止策を講じるべきと考えるが検討状況は？
- ・国保医療係長：検討したが現在、北海道で制度の精査しており、精算するには2か年分赤字になった場合の2か年分の不足分を賄えるようにするなど検討が進められており、今現在大きく余剰を減らす段階ではないと判断し、本年度も標準保険税率を採用方針。
- ・渡辺委員：実質収支3億円の余剰金が出るのはそもそもの税率設定自体を高くしなくても良いのでは？
- ・国保医療係長：北海道にも確認し、制度の見直しや所得の算定方法を見直す流れになっている。
- ・渡辺委員：基金の創設について、どのような検討状況か？
- ・国保医療係長：検討を重ねており、北海道において制度の詳細の設定も進んでおり、令和12年度以降に向けて検討する。
- ・渡辺委員：基金の創設時期と考え方は？
- ・健康福祉課長：北海道でも令和12年度以降は基金を創設する方針であり、翌々年度精算に必要な財源として、直近の情報だと納付金に対して5%程度を示している。
- ・委員長：他にないか？
- ・（意見・質疑なし）
- ・委員長：以上で、調査事項「ア」の調査を終了する。

イ 戸籍への振り仮名記載について 資料2

- ・住民税務課長：事業概要説明。担当係長から資料説明する旨を告げる。
- ・住民窓口係長：資料説明（「制度概要」「振り仮名記載までの流れ」「届出期間」「届出方法」）
- ・委員長：意見・質疑はないか？
- ・渡辺委員：届け出期間が5月26日から1年以内となっており、1年を過ぎた場合に

は通知書に記載の振り仮名が適用されるという考え方で良かったか？

- ・住民窓口係長：お見込みのとおり。
- ・中村委員：今後戸籍関係の書類は振り仮名がなければ無効なのか？
- ・住民窓口係長：振り仮名がなくても有効である。
- ・常通委員：振り仮名記載の即時対応は可能なのか？
- ・住民窓口係長：その場での交付は難しく、概ね1週間程度の時間を要する。
- ・委員長：他にないか？
- ・(意見・質疑なし)
- ・委員長：以上で、調査事項「イ」の調査を終了する。

ウ 楽らく窓口の取組について 資料3

- ・住民税務課長：事業概要説明。担当係長から資料説明する旨を告げる。
 - ・住民窓口係長：資料説明（「これまでの取組」「取組の評価・成果」「今後の取組」）
(本休憩)
 - ・委員長：意見・質疑はないか？
 - ・立川委員：お悔やみの庁舎内での連携は？
 - ・住民窓口係長：先行して後期高齢者医療の葬祭費の手続や障害者手帳の手続や介護保険の資格喪失手続は一元的に帳票できるようになっている。
 - ・立川委員：農業関係との手続連携は？
 - ・住民窓口係長：帳票としてはできないが、担当部署への案内はしている。
 - ・常通委員：職員数も含め全体的な働き方は？
 - ・住民税務課長：限られた人数の中で苦慮している。新年度から戸籍の関係で新たに会計年度職員を配置している。限られた人数で最大限パフォーマンスできるよう取り組んでいる。
 - ・西尾委員：音更町へ行った際、町民が座ったまま移動しないで担当職員が来て全ての手続が完了できる仕組みとなっており、楽らく窓口と比較しどちらが良い方法なのか？
 - ・住民窓口係長：ワンストップサービスは1か所で動かなくて良いが、座ったままで職員が入れ替わる時間待たされておき、一長一短な部分がある。今後ワンストップ化を拡大させながら、職員側にとっても、来庁者の方にとっても楽な方法を調査研究していく。
 - ・中村委員：学校関係の手続の場合、窓口で手続が完了した場合、その場で就学通知書が交付されるのか？
 - ・住民窓口係長：北見市の事例も踏まえ今後検討する。
 - ・委員長：他にないか？
 - ・(意見・質疑なし)
 - ・委員長：以上で、調査事項「ウ」の調査を終了する。
-
- ・委員長：本日の調査事項について、自由討議を行う必要があるか？
 - ・立川委員：公立芽室病院経営強化プランについて、多くの質疑があったので、課題を

共有するため自由討議した方が良いのではないか？

- ・委員長：本日の追加調査事項について、自由討議を行うこととする。意見等はあるか？
- ・中村委員：住民に喜ばれる取組をすればするほど経費がかかる。病院経営において、医療従事者がチームとして業務を補完し合う体制が重要であり、これが経営改革の大きな進展であり、病院について取り組んでいければ良い。
- ・西尾委員：医療の質と経営の質は反比例しているのではないか。経営の強化と医療の強化の線引きが難しく、今後委員会で勉強していければ良い。
- ・常通委員：他の自治体病院の取組も調査しながら進めていくべき。
- ・渡辺委員：経営形態のあり方や病床機能のベッド数削減や施設の建替も議会として注視していくべきだが、経営状況だけでなく、地域に必要とされる病院へのさまざまな取組を調査していく必要がある。議会として調査すべき点は2点。道内自治体病院の令和6年度決算の状況と地域包括ケアシステムを含めた運営のあり方。
- ・委員長：委員会としてしっかり注視し、取り組む必要がある。

・委員長：調査事項「ア」について、意見はないか？

・(なし)

・委員長：終了する。

・委員長：調査事項「イ」について、意見はないか？

・(なし)

・委員長：終了する。

・委員長：調査事項「ウ」について、意見はないか？

・(なし)

・委員長：終了する。

3 その他

(1) 次回委員会の開催日程について

- ・6月2日(月)本会議終了後

(2) その他

- ・委員長：各委員から「その他」でないか？
- ・渡辺委員：病院も含め所管施設の調査をすべきでは？
- ・委員長：相手もの都合等もあり、事務局と相談しながら進める。
- ・委員長：議長からないか？
- ・(なし)
- ・委員長：事務局からないか？
- ・(なし)

以上をもって、厚生文教常任委員会を終了する。

傍聴者数	一般者	0名	報道関係者	1名	議員	3名	合計	4名
------	-----	----	-------	----	----	----	----	----

令和7年5月22日

厚生文教常任委員会委員長 中田 智恵子